答辞

恩田川の桜が春の準備をし、校舎に差し込む光や通り抜けていく暖かい空気に、春の訪れを感じるようになりました。通い慣れた通学路も、すっかり体に馴染んだ制服も、今日でその役目を終えようとしています。

本日は私たちの為にこのような素晴らしい式を挙げて頂きありがとうございます。また、御多忙の中、ご臨席くださいました、校長先生をはじめとする先生方、ご来賓の皆様、保護者の皆様、在校生代表の方、卒業生一同心より御礼申し上げます。

3年前、真新しい制服に袖を通したあの春。高校生という新しく、大きな舞台へと足を踏み入れるにあたり、大きな不安と期待を胸に抱いたことを今でも覚えています。進学することへの不安だけでなく、当時は新型コロナウイルスの影響を強く受けていたため、期待よりも不安が勝っていた、そんな心境でした。

入学してからの1年間は、分散登校になったり、オンライン授業になったり、行事がなくなったり、大きく縮小して実施したり、様々な変化がありました。思い描いていた、高校生活=青春のようなイメージとはかけ離れた現実に目を向けたくありませんでした。そんな中でも、諦めずに行事に取り組む先輩方の姿を見て、自分も学校生活を盛り上げていく一員になろうと思いました。

2年生に進級した頃から規制や雰囲気が徐々に緩くなってきたものの、まだ予断を許さない状況であり、依然として行事はできても規模の縮小をする状況が続きました。それでもできることをしようと思い、生徒会の先輩方と一緒に後夜祭の企画、運営をし、最後までやり通すことが出来ました。

3年生に進級すると更に規制は緩和され、世間的にも学校内でも本来の生活に戻ってきました。昼食時の黙食がなくなり、友達と話す時間が増え、体育祭、文化祭共に一般公開が可能になりました。後夜祭では前年度の課題を解決する方法や考えるべきことが多く、準備することも多かったのですが、辛く、大変に思うときもありましたが、結果的に大成功で終わることができたので「本当に取り組んで良かった、楽しかった」と心の底から思いました。3年生にしてようやく思い描いた学校生活を送ることができて本当に楽しかったです。

このように振り返ってみると、私たち44期生の世代は忙しく動き続ける時代と共に過ごした高校3年間でした。この3年間は良くも悪くも、当たり前や普通、日常というような言葉を考え直す期間になったと思います。この期間、ただ世の中の情勢に飲まれて、流さ

れるだけであつたらきっと、退屈で、何も得られない 3 年間になっていたことだと思いません。

ただ、私たちは違います。変わりゆく世の中の情勢に立ち向かい、時にはそれを受け入れつつも、常に最善を求め、行動し続けました。そうすることで、困難を耐え抜く力、平和な日常が続くことの尊さや、それに対する感謝の心など数えだしたらキリがないくらい多くのものを得ることができ、とても充実した 3 年間になりました。後夜祭における私の生徒会活動のように、体育祭、文化祭、合唱祭、学年レクなどの行事や、行事ではない日々の委員会活動や部活動においても、人の数だけストーリーがあつたと思います。その経験をもってこの先の進路へと向かっていきたいと思ひます。

そしてそんな私たちも今日をもって卒業します。こんなに素晴らしい卒業式はありません。マスクの隔たりがなく、お互いの笑顔も泣き顔も表情に出しながら卒業できることがどれほど素敵なことでしょうか。

最後になりますが、今、先生方、そして保護者の皆様方の目に映る私たちの姿は 3 年前と比べていくらか成長できているでしょうか。学生としての本業である勉強はもちろんのこと、部活動や委員会活動、学校行事などの経験だけでなく、日々の登下校や、休み時間の他愛もない会話など、それら全てが私たちを成長させてくれた、そう強く思ひます。そして、その機会を与えてくださったのは、成瀬高校の先生方であり、保護者の皆様のほかなりません。

今まで支えてきてくださったすべての方に感謝申し上げますと共に、成瀬高校の更なる発展を祈念し、答辞と致します。

令和 6 年 3 月 8 日

卒業生代表 瀧川 伊吹